

『十三世紀フランス語聖書』 (*Bible française du XIIIe siècle*) 彩飾写本研究：オクスフォード、クライスト・チャーチ 図書館所蔵《新約聖書》におけるヨハネ伝挿絵について

Manuscripts enluminés de la *Bible française du XIIIe siècle* : à propos de l'illustration de
l'évangile selon saint Jean dans Oxford, Christ Church, ms. 178

駒 田 亜紀子

1. はじめに

『十三世紀フランス語聖書』 (*Bible française du XIIIe siècle*) は、13世紀中葉にパリで成立した、初の完訳版フランス語聖書である。今日、断片を含め、13世紀後半から15世紀後半にかけて制作された30点余の写本作品が伝存するが、その多くは何らかの挿絵彩飾を伴う作例である¹。

筆者は、2012年に発表した論考²において、『十三世紀フランス語聖書』の写本伝承系統 (*stemma*) 上、失われた福音書のオリジナルに最も近いとされる³写本の一つ、オクスフォード、クライスト・チャーチ図書館178番写本 (Oxford, Christ Church, ms. 178; 以下、ChC178と略す) の彩飾について、フランス北部/南ネーデルラント地方およびイングランドで13世紀中葉から後半にかけて制作された仏語版『古代史』や詩篇集写本等の挿絵・彩飾との間に、形式および様式的な観点から、密接な影響関係が認められることを指摘した。一方、ChC178を特徴付ける、ヨハネ伝以下の各書の下位分節 (章) の冒頭に施された詳細な挿絵サイクルの形成については、典礼用福音書・書簡集等の物語イニシアルが着想源となった可能性を示唆するに留まった。

本稿では、『十三世紀フランス語聖書』写本の中でも ChC178の際立った特徴である、ヨハネ伝2章以下の詳細な挿絵サイクルに改めて着目する。個々の挿絵の主題・内容とテキストとの対応関係 (表1) を提示し、典礼用福音書の挿絵との比較考察を通じて、その特徴の一端を明らかにしたい。

2. オクスフォード、クライスト・チャーチ図書館所蔵《新約聖書》 (Oxford, Christ Church, ms. 178)⁴ : 挿絵の概要

ChC178は、1270年代前半にフランス北部で制作された、『十三世紀フランス語聖書』の新約聖書全編 (福音書一黙示録) を収録する写本である。旧約・新約聖書全編を収録する完本の場合、詩篇を境に前後2巻に分割されることの多いフランス語訳聖書⁵としては、やや変則的な構成をとる。巻頭 (fol. 1r-6v) に、聖書本文 (fol. 7r-133v) と同時期に作成されたと思われる⁶、本書収録の新約聖書各書各章の冒頭句の一覧 (目次)⁷が置かれていることから、ChC178は当初より新約聖書単体の写本として構想・制作されたと考えられる。ユダ書 (fol. 126v) と黙示録 (fol. 127r)

の間に1葉の欠落（それに伴い、ユダ書末尾と黙示録冒頭が逸失）が確認されるが、これ以外の箇所にテキストの欠落は認められない。

ChC178の彩飾を特徴づけるのは、ヨハネ伝およびパウロ書簡の下位分節（章）冒頭⁸の物語イニシアル内に展開する、多数の挿絵である。筆者の知る限り、旧約・新約聖書全編を通じ、聖書各書の冒頭と詩篇の8箇所の分節（1・26・38・52・68・80・97・109篇）以外の本文の下位分節にミニアチュールや物語イニシアルを配置する習慣の無い『十三世紀フランス語聖書』写本⁹において、ChC178の過剰とも言える挿絵配置は極めて異例である。史伝的な場面表現の典拠となる題材に乏しいパウロ書簡諸書の下位分節冒頭の挿絵では、画家は、短冊型の長方形内部に連なる複数の区画を埋めるため、アトリビュートの剣を手にしたパウロが各地の信徒に語りかける姿を、多少の変化を加えつつ、ひたすら反復している。これに対し、ヨハネ伝2章以下の下位分節の冒頭に置かれた物語イニシアル内の挿絵は、各章の記述に対応する詳細なサイクルを展開する（表1）。

ChC178に含まれる計100点の物語イニシアルはその形式により4タイプに分類されるが、ヨハネ伝2章以下の下位分節冒頭の物語イニシアル計21点¹⁰は、いずれも、本文3-5行分程度の高さのイニシアル（内部に物語場面を伴う物語イニシアルの場合もあれば、単純な蔓草文様を伴う装飾イニシアルの場合もある）の下方ないしは上方に円形や四葉形メダイヨンあるいはアーチ形により仕切られた区画を1~3個縦方向に並べ、挿絵の枠取りとするタイプ（図1-3）である。これらの物語イニシアルの特徴は、イニシアル本体の形状如何に関わらず、縦方向に連結された挿絵区画がイニシアル「I」に似た短冊状の形状を呈する点にある。

3. ChC178におけるヨハネ伝挿絵の展開

ChC178において、四福音書のうちヨハネ伝のみが、2章以下の21点の物語イニシアル内に計67コマに及ぶ詳細な挿絵（表1）を施された理由は、現在のところ不明である。14世紀初頭にパリで成立した仏語翻案版聖書の一種である『増補版歴史物語聖書（*Bible historique complétée*）』の14世紀後半以降に制作された一部の写本のように、『十三世紀フランス語聖書』に基づく福音書¹¹の下位分節の冒頭に、オリジナルのテキストには含まれない段落標題（ルブリカ）を導入した結果、下位分節の冒頭にも積極的に挿絵を施すようになったと推定される例¹²はあるが、本来の『十三世紀フランス語聖書』にこうした標題は備わっていない。

もとより、13世紀フランスの彩飾写本では、福音書を題材とする複数の物語場面から構成される挿絵サイクルは、フランス王室とその縁戚のために制作された『ビートル・モラリゼ』¹³や詩篇集冒頭に置かれるテキストを伴わない全頁大挿絵¹⁴、典礼用福音書の物語イニシアルによる挿絵など、本来の「聖書」以外の文脈においてもっぱら展開された。ただし、『ビートル・モラリゼ』の場合、福音書に対応するテキストは、通常四福音書ではなく、これらの叙述を統合・一本化した調整福音書（*Gospel Harmony*）に基づいており、個別の福音書の章句と挿絵との対応関係は必ずしも明確ではない。これに対し、典礼用福音書（*Evangelarium*）¹⁵では、教会暦に従い配列されたペリコーペ（ミサ典礼の際に朗読される聖書の章句）に逐語的に対応する物語イニシアルを施した作例¹⁶が、何点か知られる。

1978年にオクスフォード大学へ提出した博士学位論文以来、『十三世紀フランス語聖書』の福音書テキスト校訂版の編纂を進めるクライヴ・スネッドンは、『十三世紀フランス語聖書』の幾つかの写本において、ペリコーペが指示されていることを指摘する。事実、ChC178と並び、『十三世紀フランス語聖書』の写本伝承系統 (*stemma*) 上、失われたオリジナルに最も近いとされる福音書テキストを含む、ベルン市民図書館28番写本 (南西フランス / カタロニア地方、1270-80年代)¹⁷の末尾 (fol. 355r-v) には、同地の14世紀の写字生により、四句節に朗読されるペリコーペの冒頭句一覧が同写本内の仏語テキストに基づき記され¹⁸、本文の該当箇所の幾つかには褐色インクによる段落記号 (¶ : *pied-de-mouche*) が目印として書き込まれている。どのような場でいかなる方法により用いられたのかは不明ながら、『十三世紀フランス語聖書』が典礼用福音書を補助するテキストとして参照されたことを示唆する¹⁹、注目すべき記録である。興味深いことに、四句節の第3週から聖霊降臨の八日間 (オクタヴァ) までの期間はペリコーペの中でヨハネ伝が集中的に読まれる期間に当たる²⁰。ベルン市民図書館28番写本に記された四句節の福音書ペリコーペ (fol. 355v)²¹も、49項目のうち25項目がヨハネ伝の朗読である。

筆者は、2012年の論考において、『サント・シャペルの典礼用福音書』第3・4写本 (パリ、フランス国立図書館ラテン語17326番写本：パリ、1280年代；ロンドン、大英図書館 Add. ms. 17341：パリ、1285-90年頃)²²の短冊状の物語イニシアル内部のアーチ形の挿絵枠と矩形の外周との間のスペースを屋形付きアーチや塔あるいはピナクルなどの建築モチーフにより充填する手法が (参考：図4-7)、ChC178の物語イニシアルのそれに酷似することを指摘した。ChC178とは制作地も制作環境も異なる『サント・シャペルの典礼用福音書』第3・4写本とChC178との間に直接的な影響関係を見出すことは難しいが、ペリコーペという聖書本文の限定的な引用形式に対応した『サント・シャペルの典礼用福音書』第3・4写本の260点余の (逐語的な) 挿絵²³は、「聖書」としては異例のChC178のヨハネ伝挿絵サイクルの特徴を探る上で、興味深い比較参照項を提供する。本稿では、紙幅の制約上、ChC178のヨハネ伝挿絵サイクルを構成する計67場面 (コマ) の記述と、『サント・シャペルの典礼用福音書』第3写本の聖節の部 (*Temporale*) ペリコーペのヨハネ伝に対応する章句の一覧は、表1に譲り、少数の興味深い事例を対象を絞って、ChC178と『サント・シャペルの典礼用福音書』第3写本 (以下、『典礼用福音書』と略す) の挿絵の比較考察を行いたい。

ChC178には、複数コマ (場面) から構成される挿絵の円滑な読み取りを犠牲にしても、物語の登場人物を、イエスを中心とする展開に「再編」して配置した挿絵がある。典型的な例が、V章冒頭の挿絵 (fol. 54v/a) (図1) である。『十三世紀フランス語聖書』のヨハネ伝V章の本文は、本来の5章の冒頭で語られる「ベトザタの池の奇跡」(ヨハ5：1-9) に先立ち、前半部にヨハ4：35-54を含む。ChC178のV章冒頭の4コマ構成の挿絵 (図1) は、第1～3コマにヨハ4：35-54に対応する場面を、第4コマに本来の5章で語られる「ベトザタの池の奇跡」(ヨハ5：1-9) に対応する場面を描く。イニシアルGの枠内に展開する第1コマは、弟子たちに説教するイエスを描くことで、ヨハ4：35-38の対話場面を漠然と表す。これに対し、第2・3コマは、ガリラヤに来たイエスが、カファルナウムの王の役人の息子の病を遠方から (病人たる息子に対面せずに) 言葉のみで癒すエピソード (ヨハ4：46-54) を描く。円形メダイヨン内に描かれた第2コマは、画面右の王冠を戴く男すなわち「カファルナウムの王」(の役人) に向き合うイエス

(画面中央)が自身の背後に座る(本来はその場には居ないはずの)「病気の息子」(画面左)を指し示し、息子が助かるというイエスの言葉を信じるよう、(父親に)諭す場面であろう。四葉型メダイオンを枠取りとする第3コマでは、画面右の頭巾を被った2人連れの男に画面左のイエスが語りかける様子を描く。これは、「イエスの言葉を信じて」帰途についた父親(役人)が、自分を迎えに来た僕から、息子の治癒を知らされる場面ではなかろうか。イエスと別れて帰郷する途上で僕と合流した父親(役人)は、イエスが「あなたの息子は生きている」と言ったまさにその時刻に息子の熱が下がったことを、僕から知らされる。画面右端に立つ男が驚いたように右手を胸前に挙げ(その場に居ないはずの)イエスを振り返る姿は、(隣に立つ)僕の知らせを受けてイエスの言葉を思い起こす役人にこそ相応しい。おそらく画家のミスにより、「王の役人」が2人の異なる人物(第2コマの王冠を戴く男と第3コマの右端の頭巾を被った男)として描写されているが、「イエスの言葉を信じる」ことにより息子が治癒するという物語の要諦を、上下に連なる挿絵の「軸」に(第3コマではその場には居ないはずの)イエスを据えることにより、喚起している。

これに対し、同じエピソード(ヨハ4:46-53)に対応する『典礼用福音書』の3コマ構成の挿絵(fol. 139r/b: 聖節の部・聖霊降臨後第21週の主日)(図4)は、物語の展開をより「説明的」に示す。すなわち、①役人(画面右)に語りかけるイエス、②迎えに来た2人の僕(画面右)に合流する役人(同、左)、③(帰郷した)役人と病から回復して寝台から起き上がる息子との対面、である。福音書本文に概ね忠実な場面①②の描写に対し、画像化することが容易ではない、イエスの言葉を信じることにより息子が治癒するという奇跡は、福音書には具体的な記述の無い③役人と治癒した息子の対面により、示される。場面③は、「回復して寝台から起き上がる病人」を軸に描写されるが、これは、福音書で繰り返される「病人の治癒の奇跡」を描く際の、『典礼用福音書』における定型表現²⁴である。

『典礼用福音書』では、ヨハ4:46-53に対応する fol. 139r の挿絵(図4)の次頁の fol. 139v にも、「イエスの言葉を信じる」ことによりイエスに対面することなく病人が治癒するという、ルカ7:1-10に対応する挿絵(聖節の部・聖霊降臨後第21週の水曜日)が、4コマ構成で描かれている(図5)。すなわち、①建物の扉口で百卒長と2人の男(画面右)に語りかける、イエスと弟子たち(同、左)、②病床の僕を見舞う百卒長と2人の男、③百卒長と2人の男(画面右)に語りかけるイエス(同、左)、④百卒長と病から回復し寝台から起き上がる僕との対面、である。イエスの言葉により病人が治癒すると信じる百卒長とイエスとの対話場面を描く③は、ChC178のV章の挿絵の第3コマの場面(図1)と一見よく似た構図を示す。しかし、『典礼用福音書』の挿絵(図5)は、最終場面④(ルカ7:10「使いに行った人たちが家に帰ってみると、僕は元気になっていた」に対応)を含め、テキストに概ね忠実な場面展開を見せるのに対し、ChC178の挿絵は、異なる場所に居るはずの登場人物(病の息子、王の役人)を、身振りを介してイエスに関連付けることにより、言葉による(非対面型の)奇跡の物語を、イエスを軸に再編したものと考えられる。

ChC178には、福音書本文の文言に密着した描写を追求した挿絵も散見する。中でも興味深いのが、復活後のイエスがティベリアス湖畔に姿を現し、漁に出たペトロたちと再会する場面を描く、XXI章の挿絵である(ヨハ21:1-14)(図2)。挿絵は、不漁に見舞われたペトロたちが、

イエスの助言に従い、「舟の右側に網を打」つ第1場面（ヨハ21：6）、イエスに気付いたペトロが湖に飛び込みイエスの許に駆けつけようとする第2場面（ヨハ21：7）、ペトロたちとイエスが陸に上がり獲れた魚で朝食をとにもする第3場面（ヨハ21：9-13）、から構成される。第1場面は、物語イニシアルEの中央の横画を舟の手すり（？）に見立て、「右手側」に網を垂れる弟子たちを描く。イエスを認めて湖に飛び出すペトロを描く第2場面は、「裸だったので上着を纏って湖に飛び込んだ」（ヨハ21：7）（Simon Pierre … se ceint de sa quote, quar il estoit nuz, et se mist en la mer.）ペトロが腰布を巻いた姿で舟から湖上へと大きく踏み出す様子を描く。ペトロの足元には、「あまりに多くて、もはや網を引き上げることができなかった」（ヨハ21：6）魚が折り重なる。陸での朝食を描く第3場面は、極小の画面の中に、魚やパンを並べた食卓を前に、魚を手にとって弟子に語りかけるイエス（ヨハ21：10「イエスが、『今捕った魚を何匹か持って来なさい』と言われた。」；ヨハ21：13「イエスは来て、パンを取り、弟子たちに分け与えられた」）を描く。『典礼用福音書』に描かれた同じ章句（ヨハ21：1-14）に対応する物語イニシアル（fol. 95r/a：復活祭後の水曜日）（図6）は、ここでは、ChC178のそれによく似た3場面構成の挿絵を展開する。すなわち、①ティベリアス湖畔に立つイエスが漁に出たペトロたちに語りかける（舟上の弟子たちはまだ網を打っていない）、②イエスの姿を認めたペトロが茶色の「上着を纏って湖に飛び込」む（2人の弟子が引く網には大量の魚がかかっている）、③朝食の席に着いた3人の弟子にイエスが大きな塊状のパンを手渡す、という3場面である。教会暦が定める祭日・祝日ごとに朗読すべき福音書の章句を限定して引用する典礼用福音書では、ここで取り上げた復活祭後の水曜日の挿絵（図6）のように、引用された章句（ヨハ21：1-14）と挿絵内容とが緊密に対応する場合が少なくない。章毎の分節以外に本文を限定している訳ではないChC178において『典礼用福音書』によく似た挿絵図像が展開するヨハネ伝XXI章の事例は、ChC178の挿絵の構想において何らかの典礼用福音書写本が参照された可能性を示唆するとも考えられる。

ChC178のヨハネ伝やパウロ書簡の挿絵は、イエスやパウロが弟子やユダヤ人その他の人々と会話あるいは議論する場面では、多くの場合、語りの内容を視覚化することはなく、イエスの語る行為自体を挿絵の主題とする（表1：XIII-XVI章の項を参照）。その中で、ヨハネ伝の最終章であるXXII章（ヨハ21：15以下）の冒頭に描かれた4場面構成の挿絵は、異色の展開を見せる（図3）。イニシアルQの内部に描きこまれた第1場面は、XXI章の末尾であるヨハ21：12-14に対応するXXI章挿絵の第3コマ（上記参照）（図2）に描かれたティベリアス湖畔での朝食場面を、概ね踏襲する。これに対し、XXII章の第2・3コマの挿絵は、朝食を終えたイエスがペトロに司牧の道を説き、「イエスの愛しておられた弟子」ヨハネが後を付いて来るのに気付いたペトロが、ヨハネ（の行末）についてイエスに問う場面を描く（図3）。すなわち、アトリビュートの鍵を持つペトロにイエスが語りかける第2コマ（ヨハ21：15）、画面中央に立つイエスが同左に立つヨハネに話しかける傍らで、ペトロが2人を背後から見守る第3コマ、イエスを囲み座る弟子たちに書物を手にしたイエスが語りかける第4コマ、である。ここでは、第3コマに、イエスの背後からヨハネを見守るペトロ（アトリビュートの鍵を持つ）を描くことにより、ヨハネをめぐる比喩的な会話内容²⁵を具体的な動作として視覚化している。同じヨハ21：15以下に対応する『典礼用福音書』の3コマ構成の物語イニシアル（fol. 154r/b：聖人祝日の部 *Sanctorale*, 6月28日、聖ペトロと聖パウロの祝日前夜）（図7）の第1・2コマは、イエスがペ

トロに司牧活動を託す場面（ヨハ21：15-17）を、足元に座る人々を指差してイエスと弟子（ペトロ？）が語り合う場面を反復することにより、説明的に描写する。ここでは、ChC178の挿絵において視覚化された、ヨハネの行末をめぐるイエスとペトロの会話内容は、主題化されていない。他方、第3コマの挿絵は、（ペトロの殉教に暗に言及した）ヨハ21：18-19の「歳を取ると、両手を広げ、他の人に帯を締められ、行きたくない所へ連れて行かれる」をペトロの殉教場面（頭を下にした逆さの磔刑）として「意識」する、周到な図像解釈を提示する。聖ペトロと聖パウロの祝日前夜に読まれるペリコーペに相応しい挿絵主題である。

結語にかえて

本稿は、『十三世紀フランス語聖書』福音書テキストの初期伝承において失われたオリジナルに最も近いとされる写本の一つである ChC178 を取り上げ、『十三世紀フランス語聖書』写本としては極めて異例の計67コマに及ぶ詳細なヨハネ伝の挿絵について、ほぼ同時代に制作された『サント・シャペルの典礼用福音書』第3写本の挿絵を比較項としつつ、数点の挿絵を対象を絞り、その特徴を考察した。その結果、ChC178においては、複数コマ（場面）から構成される挿絵の円滑な読み取りを犠牲にしても、物語の登場人物を、イエスを中心とする展開に「再編」した挿絵や、挿絵の構想において何らかの典礼用福音書写本が参照された可能性を示唆する、福音書本文の文言に密着した描写を追求した挿絵、繊細な意味を持つ比喩的な会話内容を具体的な動作として視覚化した挿絵など、狭小な画面の中で実に多様な図像が展開されていることを確認した。

13世紀を通じ、フランスの彩飾写本における聖書図像は、『ビートル・モラリゼ』、『サント・シャペルの典礼用福音書』、『聖王ルイの詩篇集』など、本来の「聖書」とは異なる（世俗の君主や高位聖職者のための）豪華写本という文脈の中で発展することになる。注文主や使用環境がある程度は推測することが可能なこれらの作品群に対し、『十三世紀フランス語聖書』の主要な読者や使用環境については、いまだに多くの究明すべき課題が残されている²⁶。今回の試みを、中世後期の彩飾写本における聖書図像の展開を写本媒体と使用環境の側面からより具体的に追究する端緒としたい²⁷。

註

1 『十三世紀フランス語聖書』彩飾写本の概要については、拙論 KOMADA (A.), *La première génération de la Bible française du XIIIe siècle*, in: *Lusitania Sacra*, tome XXXIV (2016), pp.105-135および同論文で引用した先行研究を参照。

2 拙論『『十三世紀フランス語聖書』(Bible française du XIIIe siècle) 彩飾写本研究：オクスフォード、クライスト・チャーチ図書館所蔵《新約聖書》について』、『実践女子大学美術美術史学』第26号(2012)、pp. (17) - (37)。

3 『十三世紀フランス語聖書』テキスト全般、特に福音書テキストについては、クライヴ・スネッドンが1978年オクスフォード大学に提出した博士論文とそれ以降に発表した雑誌論文が最も包括的かつ詳細な研究である。SNEDDON (C.R.), *A Critical Edition of the Four Gospels in the Thirteenth-Century Old French Translation of the Bible*. Ph. D., University of Oxford, 1978, 2 vols.; SNEDDON (C.R.), *The "Bible du*

XIIIe siècle” : its Medieval public in the light of its manuscript tradition, in: LOURDAUX (W.), VERHELST (D.), éd., *The Bible and Medieval culture*. Leuven, 1979, pp.127-141 ; SNEDDON (C.R.), *Rewriting the Old French Bible: the New Testament and Evolving Reader Expectations in the Thirteenth and Early Fourteenth Centuries*, in: SAMPSON (R.), AYRES-BENNETT (W.), éd., *Interpreting the History of French. A Festschrift for Peter Rickard on the occasion of his eightieth birthday*. Amsterdam / New York, 2002, pp.35-59 ; SNEDDON (C.R.), *On the creation of the Old French Bible*, in: *Nottingham Medieval Studies*, XLVI (2002), pp.25-44 ; BURGIO (E.), *I volgarizzamenti oitanici della Bibbia nel XIII secolo (un bilancio sullo stato delle ricerche)*, in : *Critica del testo : Storia, geografia, tradizioni manoscritte*, VII/1 (2004), pp.1-40.

- 4 133 folios, 350×270mm ; 42-44行のテキストを収める 1 カラムのサイズは240×85-87mm. ChC178については、HANNA (Ralph), RUNDLE (David), GRIFFITHS (J.), *A descriptive catalogue of the Western manuscripts, to c. 1600, in Christ Church, Oxford*, Manuscript catalogues, Oxford, The Oxford Bibliographical Society, 2017, pp.340-345を参照。加えて、所蔵機関の公式サイトにおいて詳細なカタログ記述および全頁の画像が公開されている : カタログ記述 https://medieval.bodleian.ox.ac.uk/catalog/manuscript_3939 ; 画像 <https://digital.bodleian.ox.ac.uk/objects/ae1d1d04-967d-4bd9-8a8f-7462b3191ae7/>。カタログには、写本の来歴についても、詳細な記述がある。同写本の概要については、拙論2012も参照。
- 5 上下 2 巻構成をとる『十三世紀フランス語聖書』写本の完本の作例には、Chantilly, Musée Condé, mss. 4 & 5 (Paris, ca. 1300) ; Paris, Bibliothèque nationale de France, mss.fr. 6 & 7 (France, XV m.) ; London, British Library, mss. Harley 616 & Yates Thompson 9 (Paris, ca. 1280-85) ; New York, The Morgan Library, ms. M. 494 (Paris, ca. 1280) 等が知られる。Cf. SNEDDON 1978.
- 6 目次部分 (fol. 1r-6v) は本文とは異なる写字生による。聖書本文のレイアウトは 2 欄・42-44行 (本文スペース : 240×190mm前後 ; 本文 fol. 7-85v : 44行 ; fol. 86-133v : 42行) であるのに対し、目次部分のレイアウトは各章の冒頭句に先立ちローマ数字による章番号を記入するためのスペースを確保するためもあってか 2 欄・38行 (本文スペース : 235×195mm前後) である。一方、本文テキスト欄を一回り外側から囲む余白中央部の濃紺のインクによる二重罫線は、全フォリオ (fol. 1-133v) を通じて一貫している。
- 7 『十三世紀フランス語聖書』写本では、前半の旧約聖書テキストは、本文と注解は段落記号等により視覚的に分節されている (cf. KOMADA 2016) が、新約聖書テキストは、大半の写本において、聖書本文と注解が、段落記号や改行などの視覚上の区分を一切伴わず、連続して筆写されている。聖書本文の分節 (章立て) は概ねウルガータ訳聖書のそれに従うが、ヨハネ伝では、4-5章、14-15章、16-17章、21-22章間は、『十三世紀フランス語聖書』とウルガータ訳聖書の間で、分節箇所が異なる (表 1)。ChC178と並び、失われたオリジナルに最も近い写本の一つとされる、ベルン市民図書館28番写本 (南西フランス / カタロニア地方、1270-80年代)、パリ、フランス国立図書館フランス語12581番写本 (シャンパーニュ地方、1284年) も、ChC178と同じ分節構造を持つ。
- 8 マタイ伝 (fol. 7r : 「エッサイの樹」)、マルコ伝 (fol. 22v : 「説教する洗礼者ヨハネ」)、ルカ伝 (fol. 33v : 「ザカリアへの告知」) までは、各書の冒頭にのみ物語イニシアルを置くのに対し、ヨハネ伝以降 (fol. 52r-) は、使徒言行録 (fol. 102v-119v)、公同書簡 (fol. 119v-126v)、黙示録 (fol. 127r-133v) を除き、ヨハネ伝全22章 (fol. 52r-66v)、ロマ書、コリント 1・2 書およびガラテア書の各序文 (fol. 66v, 73r, 79r, 83v, 85v)、パウロ書簡のうちロマ書、コリント 1・2 書、ガラテア書およびエペソ書 4 章までの全章の冒頭 (fol. 67r-86v) に、物語イニシアルないしは挿絵を置く。
- 9 13世紀後半に制作された主要な『十三世紀フランス語聖書』写本に含まれる挿絵主題の一覧 (STONES (A.), *Gothic Manuscripts 1260-1320*. Harvey Miller, 2013-2014, Part II, vol. 2, pp.116-128 ; ChC178のヨハ

- ネ伝の挿絵の簡単な記述は p.128, note 13) を参照。
- 10 『十三世紀フランス語聖書』のヨハネ伝は22章からなり、最終章はウルガータ訳聖書の21章15-25節に相当する。なお、本稿では、ChC178のヨハネ伝の章番号を写本内の表記に従いローマ数字 (I ~ XXII) で表記し、ウルガータ訳聖書の章番号 (アラビア数字 1 ~ 21 で表記) と区別する。
- 11 『増補版歴史物語聖書 (*Bible historique complétée*)』の福音書テキストは全面的に『十三世紀フランス語聖書』から引用されており、本来は下位分節の冒頭に標題 (ルブリカ) を伴わない。『増補版歴史物語聖書 (*Bible historique complétée*)』写本の挿絵については、KOMADA (A.), *Les illustrations de la Bible historique: les manuscrits réalisés dans le Nord*. 4 vols., Thèse de doctorat nouveau régime, Université Paris IV-Sorbonne, 2000; FOURNIÉ (É.), *L'iconographie de la "Bible historique"*. Brepols, 2012 を参照。
- 12 例えば、ジャン・ド・ボドタールによる巻頭のシャルル5世の肖像が名高い、ハーグのメールマン美術館所蔵作品 (The Hague, Museum Meermanno, ms. 10 B 23: パリ、1371-72年) を参照。
- 13 『ビートル・モラリゼ』に関する近年の包括的研究として、LOWDEN (J.), *The Making of the Bibles moralisées*. 2 vols., The Penn. State Univ. Press, 2000 を参照。『ビートル・モラリゼ』の新約聖書図像については、BESPFUG (Fr.), ZALUSKA (Y.), *The New Testament (except the Revelation) in the Bible of Saint Louis*, in: GONZALVEZ (R.), ed., *The Bible of Saint Louis, II. Commentary volume*. Moleiro Editor, 2004, pp.347-447 を参照。
- 14 一例として、『聖王ルイの詩篇集』(Paris, Bibliothèque nationale de France, ms. Lat. 10525) とほぼ同時代 (1270年頃?) にパリで制作された『パドヴァの詩篇集』(Padova, Biblioteca del Seminario, ms. 353) を挙げる。同写本については、ZONNO (S.), *Un Psautier Parisien du temps de Saint Louis*, in: *L'art de l'enluminure*, no. 11 (2013); STONES (A.), *Gothic Manuscripts 1260-1320*. Harvey Miller, 2013-2014, Part I, vol. 1, pls. 1-3, 6-7; vol. 2, cat. I-1 を参照。
- 15 典礼用福音書 (朗読用福音書; 英 Evangelistary / Gospel Lectionary / Pericope book; 羅 *Evangelarium*) は、ミサ典礼において朗読される福音書の章句 (ペリコーペ) を年間の教会暦に従い配列した書物である。同様にミサ典礼において朗読される新約聖書の書簡、その他の新約・旧約聖書からの引用章句を年間の教会暦に従い配列した典礼用書簡集 (英 Epistolary; 羅 *Epistolarium*) と、対で用いられる。
- 16 1260-80年代にフランスで制作された典礼用福音書写本5点における、物語イニシアルを伴うペリコーペの一覧 (STONES (A.), *Gothic Manuscripts 1260-1320*. Harvey Miller, 2013-2014, Part II, vol. 2, pp.166-193) を参照。
- 17 Bern, Burgerbibliothek, Cod. 28の挿絵彩飾については、拙論『『十三世紀フランス語聖書』(*Bible française du XIIIe siècle*) 彩飾写本研究: 地域展開の諸相』、『実践女子大学美学美術史学』第27号 (2013)、pp.(21)-(42) および ESCANDEL PROUST (I.), *Códices bíblicos del taller de Magister Raimundus en Vic (Cataluña)*, in: *Lusitania Sacra*, tome XXXIV (2016), pp.223-251 を参照。筆者は、2013年の論考では、同写本の制作地をトゥールーズ / ラングドック地方としたが、ESCANDEL PROUST の2016年の論考に従い、制作地の候補にカタロニア地方を加えた。
- 18 Cf. SNEDDON 1978, vol.1/part 1, p.162.
- 19 C. スネッドンは、ChC178でもペリコーペが指示されていると述べる (SNEDDON 1978, vol.1 / part 1, p.192: "Pericope passages are indicated") が、筆者が確認し得た限り、少なくともヨハネ伝にはペリコーペを指示する注記は認められない。冒頭の目次や本文の余白には、14-15世紀の読者による右手人差し指形の注意喚起の印 (*manicula*) が複数箇所書き込まれているが、ヨハネ伝において *manicula* が指示する章句、すなわち3章31節 (fol. 54r/a: Cil qui est de terre parole de terre ... Cil qui vient de hault est sor touz; cf. SNEDDON 1978, vol.2, part 2, p.295)、8章30節 (fol. 57v/b: Moulte current en lui por cez paroles

- qu'il disoit; cf. SNEDDON 1978, vol.2, part 2, p.317)、13章19-20節の注解 (fol. 61v/a: … (Dieu qui sai non mie seulement ce qui est passé, mes neis ce qui est a avenir.) Je vos di veraielement, que qui recoit aucun se ge l'envoie, il me recoit; cf. SNEDDON 1978, vol.2, part 2, p.339)、15章6節 (fol. 62v/a: Se aucune ne demeure en moi, il sera tranchiez fors comme serment et sechera ; cf. SNEDDON 1978, vol.2, part 2, p.345)、16章23節の注解 (fol. 63r/b: (c'est a dire el non del sauveeur, c'est el non de sauvement, et qui apartiengne aura sauvement, il le vos dorra…) ; cf. SNEDDON 1978, vol.2, part 2, p.349)、17章20節 (fol. 63v/b: Ge ne prie mie tant seulement por els, mes neis porc els qui croient par lor paroles en moi; cf. SNEDDON 1978, vol.2, part 2, p.353) がペリコーペに対応することを示す資料は、これまでの筆者による調査では確認されていない。
- 20 1260-80年代にフランスで制作された典礼用福音書写本5点における、物語イニシアルを伴うペリコーペの一覧として、STONES (A.), *Gothic Manuscripts 1260-1320*. Harvey Miller, 2013-2014, Part II, vol. 2, pp.166-193、特に pp.171-177を参照。同ペリコーペ一覧に引用された5点の写本のうち、ChC178と制作地が近いカンブレ市立図書館189番写本 (カンブレ、1266年) は、ヨハネ伝のペリコーペを多く含む受難節～聖霊降臨の期間にフォリオの欠落が多いため、本稿での比較考察の対象からは除外した。
- 21 Cf. <https://www.e-codices.unifr.ch/en/bbb/0028/355v/0/>
- 22 『サント・シャペルの典礼用福音書』第3写本: Paris, Bibliothèque nationale de France, ms. lat.17326 (パリ、1280年頃; 187 folios, 310×205 mm); 第4写本: London, British Library, Add. ms. 17341 (パリ、1285-90年頃; 173 folios, 310×205 mm)。これら2写本に関する近年の総括的研究として LAFFITE (M.-P.) éd., *Le trésor de la Sainte-Chapelle* (catalogue d'exposition au Musée du Louvre). Paris, Musée du Louvre, 2001, notice nos. 37, 42を参照。ただし、第3写本の制作年代については、前掲書の提案する1260-70年代は、挿絵彩飾の様式的特徴に照らし、早すぎると思われる。
- 23 『サント・シャペルの典礼用福音書』第3・4写本の寓喩を主題とする挿絵に関する周到な論考として、KAUFFMANN (C.M.), *The Sainte-Chapelle Lectionaries and Illustration of the Parables in the Middle Ages*, in: *J.W.C.I.*, LXVII (2004), pp.1-22を参照。
- 24 聖節の部 (fol.1-146v) では、fol. 25v, 27r, 30v, 40v, 47v, 109r, 133v, 134r, 134v, 139v, 144r に同様の表現が見られる。
- 25 「ペトロが振り向くと、イエスの愛しておられた弟子が付いて来るのを見た。…ペトロは彼を見て、『主よ、この人はどうなるのでしょうか』と言った。イエスは言われた。『私の来るときまで彼が生きていることを、私が望んだとしても、あなたに何の関係があるか。あなたは、私に従いなさい。』」(ヨハ21: 20-22)
- 26 『十三世紀フランス語聖書』の読者や使用環境については、拙論 KOMADA 2016において、挿絵画家のレパトリーとの関連から、研究の現状を整理し、今後の研究展望の概略を提示した。
- 27 本稿は科学研究費補助金 (基盤研究 B 19H01212および学術変革領域研究 B 20H05718+20H05720) による研究課題の成果の一部である。

表1 : Oxford, Christ Church ms. 178のヨハネ伝挿絵図像とテキストの対応関係

* 福音書章句の略号表示の例 : Jn 4, 35 = ヨハネによる福音書 4章35節

章 : ChC178上の章番号を表記 (“III” = IV). ウルガータ訳聖書の章番号 (アラビア数字で表記) とは区分が異なる箇所があり、最終章は XXII 章 (「冒頭句」の項を参照).

folio : 章が開始するフォリオの番号とフォリオ上の第1/第2カラムを a/b の記号により区別.

冒頭句 : 各章の冒頭句 (原則として各章の第1節) を ChC178から翻刻. 註解はイタリック表記. 章の冒頭・末尾の分節が『聖書協会共同訳聖書』のそれと異なる場合 (4-5, 14-15-16-17, 21-22章) は, [] 内に ChC178上の章の末尾を引用し, 『聖書協会共同訳聖書』に基づく本文対応箇所を略号で表示.

挿絵内容 : 挿絵を構成する複数のコマに上から順に番号を振り, 各コマの挿絵内容の概略を記述.

対応章句 : コマ番号で示した挿絵内容の本文対応箇所を『聖書協会共同訳聖書』に基づき略号で表示.

聖節の部 (Temporale) ヨハネ伝ベリコーペ : STONES 2013-2014, Part II, vol. 2, pp.166-193にまとめられた『サント・シャベルの典礼用福音書』第3写本 (Paris, Bibliothèque nationale de France, ms. Lat. 17326) のベリコーペ一覧と写本本文 (<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b104650707/f146.planchecontact.r=latin%2017326>参照) の照合に基づき, ヨハネ伝を朗読する祭日 (教会暦順), 括弧内にヨハネ伝朗読を開始するフォリオ番号, 朗読を開始する章句を表示.

章	folio	冒頭句	挿絵内容	対応章句	聖節の部 (Temporale) ヨハネ 伝ベリコーペ
I	52r/b	Parole estoit au commencement & cele parole estoit envers Dieu, <i>c'est en la connoissance Dieu le Pere, & Diex estoit Parole.</i>	1. 福音書記者ヨハネ	—	4th Sunday in Advent (5v) : Jn 1, 19 Christmas Day (11r) : Jn 1, 1 Octave of Epiphany, Feria VI (17r) : Jn 1, 29
II	53r/b	Au tiez jor, noces furent faites en une vilete de Galilee qui estoit apelee Chana.	1. カナの婚礼に招かれたイエス、マリア、2人の弟子 2. 婚礼の宴 3. 水瓶を祝福するイエス?	1. Jn 2, 1 2. Jn 2, 2 3. Jn 2, 6-7	1st Sunday after Octave of Epiphany (18r) : Jn 2, 1 4th week of Quadragesima, Feria II (44r) : Jn 2, 13
III	53v/a	Uns hom estoit des Pharisieus qui avoit a non Nichodemus & estoit princes des Yuis.	1. イエスとニコデモ	1. Jn 3, 1-15	1st week after Easter, Feria II ? (98r) : Jn 3, 1 Pentecoste, Feria II (106v) : Jn 3, 16
III	54r/a	Quant Ihesus sot que li Pharisieu oient qu'il faisoit plusors deciples que sainz Jehans Baptiste... [Ihesus lors dist: "Mon mengier est que ge face la volente de celui qui m'envoia que ge par face son oeuvre. <i>Dont ne dites qu'il a encore .IIII. mois de si a moisson.</i> (Jn 4, 35)]	1. 井戸端のイエスとサマリアの女 2. 語り合う3人の弟子 3. 街を出てイエスの許へ向かうサマリアの人々?	1. Jn 4, 6-15 2. Jn 4, 27? 3. Jn 4, 30?	3rd week of Quadragesima, Feria VI (41r) : Jn 4, 5
V	54v/a	"Ge vos di, levez vos eulz & veez les regions, quareles sont blanches a moisson." (Jn 4, 35-36)	1. 弟子たちに説教するイエス 2. 王の役人の病気の息子を指差し、王と話すイエス 3. 頭巾を被った男2人と話すイエス 4. 雲から身を乗り出しベトザタの池を指さす天使と池を囲む人々 (図1)	1. Jn 4, 35-38 2. Jn 4, 46-49 3. Jn 4, 50-54 4. Jn 5, 1-4	1st week of Quadragesima, Feria VI (31r) : Jn 5, 1 21th week after Pentecoste, Domenica (139r) : Jn 4, 46 (図4)

VI	55v/a	Emprés ice ala Ihesus outre la mer de Galilee qui est de Tyberiadie.	<ol style="list-style-type: none"> 1. 弟子たちに説教するイエス 2. イエスにパンと魚を持ち寄る弟子たち 3. 弟子たちに説教するイエス 4. 舟の上の弟子たちと水上を歩くイエス 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Jn 6, 5-7 2. Jn 6, 9 3. Jn 6, 10 4. Jn 6, 19-20 	<p>4th week of Quadragesima, Domenica (43v): Jn 6, 1</p> <p>3rd week after Easter, Feria IV (101r): Jn 6, 1</p> <p>Pentecoste, Feria IV (107v): Jn 6, 44</p> <p>15th week after Pentecoste, Feria VI (129v): Jn 6, 15</p> <p>27th week after Pentecoste, Domenica (146v): Jn 6, 5</p>
VII	56v/a	Emprés ce, Ihesus aloit en Galilee; Il ne voloit mie aller en Judce, quar li Yuif le queroient a ocirre.	<ol style="list-style-type: none"> 1. イエスと2人の弟子 2. 神殿に入るイエスと1人の弟子 3. ユダヤ人たちに語りかけるイエス 4. 話し合う5人のユダヤ人 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Jn 7, 3-8 2. Jn 7, 14 3. Jn 7, 16-24 4. Jn 7, 40-52 	<p>4th week of Quadragesima, Feria III (45r): Jn 7, 14</p> <p>Passion week, Feria II (51v): Jn 7, 32</p> <p>Passion week, Feria III (52r): Jn 7, 1</p>
VIII	57r/b	Ihesus ala el mont d'Olivete & vint lendemain au matin el temple.	<ol style="list-style-type: none"> 1. ユダヤ人と姦淫の女の前で地面を指差すイエス 2. 跪き合掌する女に語りかけるイエス 3. ユダヤ人たちに語りかけるイエス 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Jn 8, 6-8 2. Jn 8, 10-11 3. Jn 8, 21-30 	<p>2nd week of Quadragesima, Feria II (33r): Jn 8, 21</p> <p>3rd week of Quadragesima, Sabbat (43r): Jn 8, 1</p> <p>4th week of Quadragesima, Sabbat (50r): Jn 8, 12</p> <p>Passion Sunday (51r): Jn 8, 46</p>
IX	58r/b	Quant Ihesu trepassoit il-uec, il vit .I. home qui esoit avugles des sa nativite.	<ol style="list-style-type: none"> 1. 弟子と2人の男の前で地面を指差すイエス 2. 人々の見守る前で跪き合掌する盲目の男の目を癒すイエス 3. フェリサイ派の2人と議論するイエス 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Jn 9, 6 2. Jn 9, 6-7 3. Jn 9, 40-41 	<p>4th week of Quadragesima, Feria IV (46r): Jn 9, 1</p>
X	59r/a	"Ge vos di veraielement veraielement, que cil qui n'entre par l'uis el bercil des oeilles mes monte par amont ou par ailleurs, icelui est lierres..."	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4人物と座って語り合うイエス 2. 3人の弟子と話し合うイエス 3. 神殿でイエスに石を投げようとするユダヤ人たち 4. ヨルダン河畔でユダヤ人に語りかけるイエス 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Jn 10, 1-18 2. Jn 10, 1-18 3. Jn 10, 31 4. Jn 10, 40-42 	<p>Passion week, Feria IV (53r): Jn 10, 22</p> <p>2nd week after Easter, Domenica (99r): Jn 10, 11</p> <p>Pentecoste, Feria III (107r): Jn 10, 1</p>
XI	59v/a	Uns langoreus estoit, qui avoit a non Ladres, de Bethanie, qui estoit chastel Marthe & Marie ses sereurs.	<ol style="list-style-type: none"> 1. マルタとマリアに語りかけるイエス 2. ラザロの墓の前でマルタ、マリア他のユダヤ人に語りかけるイエス 3. ユダヤ人前で屍衣に包まれたラザロを墓から蘇生させるイエス 4. ユダヤ人に囲まれるイエス 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Jn 11, 3? 2. Jn 11, 17-34 3. Jn 11, 44 4. Jn 11, 45? 	<p>4th week of Quadragesima, Feria VI (48r): Jn 11, 1</p> <p>Passion week, Feria VI (54v): Jn 11, 47</p>

XII	60r/b	Ihesus vint em Bethanie, devant .VI. jorz de la Pasque, ou il Ladres avoit este morz qu'il suscita.	<ol style="list-style-type: none"> 1. ベタニアでのラザロとマルタを伴う食事の席でイエスの足に香油を塗ろうとするマリア 2. 香油の壺を持つマリアに語りかけるイエス 3. エルサレム入城 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Jn 12, 2-3 2. Jn 12, 7? 3. Jn 12, 12-14 	Palm week, Feria II (63v): Jn 12, 1 2nd week after Easter, Feria VI (100r): Jn 12, 44
XIII	61r/a	Devant le jor de feste qui estoit jor de Pasque, Ihesus sachanz que son heure estoit venue qu'il alast de cest monde au Pere,	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2人のユダヤ人から銀貨を入れた袋を受け取るユダ 2. 弟子たちの足を洗うイエス 3. 弟子たちに語りかけるイエス 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Jn 13, 2 2. Jn 13, 4-10 3. Jn 13, 12-18 	Maundy Thursday (77r): Jn 13, 1 4th week after Easter, Feria VI (102r): Jn 13, 33
XIII	61v/b	"Vostre cuers ne soit mie troublez & n'ait mie peor. [en tel maniere ne povez vos mie fere fruit se vos ne demourez en moi." <i>Ce est a dire se vos ne perseverrez en ma mor.</i> (Jn 15, 4)]	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鍵を持つペトロに語りかけるイエス 2. 他の2人の弟子たちが見守る中で鍵を持つペトロに語りかけるイエス 3. 弟子たちに語りかけるイエス 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Jn 14 2. Jn 14 3. Jn 14 	5th week after Easter, Domenica (102r): Jn 14, 14 Vigil of Pentecoste (105v): Jn 14, 15 Pentecoste (106r): Jn 14, 23
XV	62v/a	"Ge sui vingne, & chascuns de vos en est branche..." (Jn 15, 5)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 弟子たちに語りかけるイエス 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Jn 15 	4th week after Easter, Feria IV (101v): Jn 15, 7 Sunday in Octave of Ascension (104v): Jn 15, 26 Octave of Ascension, Feria IV (105r): Jn 15, 26
XVI	62v/b	"Ce vos ai ge dit, que vos ne saiez escandelizié. [et ge ne sui mie seul, quar mon Pere est o moi." (Jn 16, 32)]	<ol style="list-style-type: none"> 1. 弟子たちに語りかけるイエス 2. 弟子たちに語りかけるイエス 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Jn 16 2. Jn 16 	3rd week after Easter, Domenica (100v): Jn 16, 16 4th week after Easter, Domenica (101r): Jn 16, 5
XVII	63v/a	"Cez choses vos ai ge dites, que vos aiez pes en moi..." (Jn 16, 33)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 弟子たちに語りかけるイエス 2. 弟子たちに語りかけるイエス 3. 弟子たちに語りかけるイエス 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Jn 17 2. Jn 17 3. Jn 17 	Passion week, Sabbat (55r): Jn 17, 1 2nd week after Easter, Feria IV (99v): Jn 17, 11 Vigil of Ascension (103v): Jn 17, 1 Friday after Ascension (104v): Jn 17, 11
XVIII	64r/a	Quant Ihesus ot ce dit, il eissi fors o ses deciples outre le ruissel de Cedron ou .I. cortill estoit, ou il entra o ses desciples.	<ol style="list-style-type: none"> 1. イエスと弟子に対峙するユダと男たち (イエスを指差すユダ) 2. ユダの接吻、マルコスの耳を切るペトロ 3. 大祭司とユダヤ人に対し議論するイエス 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Jn 18, 3-5 2. Jn 18, 10 3. Jn 18, 12-13 	Good Friday (77v): Jn 18, 1
XIX	64v/b	Lors donques prist Pylates Ihesum & le fist battre.	<ol style="list-style-type: none"> 1. 嘲笑されるイエス (頭部を布で覆われ身を屈めたイエスを指差す男たち) 2. 鞭打ち 3. 磔刑 4. 2人の兵士とピラト?に願ひ出るアリマタヤのヨセフ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Jn 19, 2-3? 2. Jn 19, 1 3. Jn 19, 26-27 4. Jn 19, 38 	

XX	65v/b	Vn jor de la semaine, Marie Magdelainne vint a .I. matin au monument aincois qu'il fust esclarci & vit la pierre osee de seure le monument.	<ol style="list-style-type: none"> 1. イエスの墓を訪れる 3人のマリア 2. 墓から出るイエス、マリア、ペトロと他の 2人の弟子（イエスを指差すマリア） 3. 墓の前で香炉を振る 2天使 4. 「我に触れるなかれ」 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Jn 20, 1 ? 2. Jn 20, 2-9 ? 3. Jn 20, 12 4. Jn 20, 17 	Easter week, Feria V (95v): Jn 20, 11 Easter week, Sabbat (96v): Jn 20, 1 1st Sunday after Easter (97r): Jn 20, 19
XXI	66r/b	Emprés ce se fist Ihesus connoistre a la mer de Tyberiaderechief, & se fist connoistre en tel maniere. [Ices .III. foiz apparut Nostre Sires a ses deciples emprés ce qu'il fu resuscitez. (Jn 21, 14)]	<ol style="list-style-type: none"> 1. 奇跡の漁り（舟の上に5人の弟子、右舷に網を打つ） 2. 湖畔に立つイエス、腰布を纏い舟から水面に踏み出すペトロ 3. 弟子たちと食卓に着き魚を手取るイエス（図2） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Jn 21, 6 2. Jn 21, 7 3. Jn 21, 10-14 	Easter week, Feria IV (95r): Jn 21, 1 (図6)
XXII	66v/a	Quant il menioient, il dist a Symon Pierre: "Symon, fuilz Jehan, m'aimes tu plus que cez?" (Jn 21, 15)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食卓に着くイエスと弟子たち（卓上にパンと魚） 2. 鍵を持つペトロに語りかけるイエス 3. イエス、鍵を持つペトロ、ヨハネ？ 4. 書物を手弟子たちに語りかけるイエス（図3） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Jn 21, 13 2. Jn 21, 15 3. Jn 21, 20-22 4. Jn 21, 25 ? 	

図1 Oxford, Christ Church, ms. 178, fol.
54v/a : ヨハネ 伝 V 章

図4 Paris, Bibliothèque nationale
de France, ms. lat. 17326 , fol.
139r/b : 聖節の部、聖霊降臨
後第21週の主日

図5 Paris, Bibliothèque nationale
de France, ms. lat. 17326, fol.
139v/b : 聖節の部、聖霊降臨
後第21週の水曜日

図2 Oxford, Christ Church, ms. 178, fol.
66r/b : ヨハネ 伝 XXI 章

図3 Oxford, Christ Church, ms. 178, fol.
66v/a : ヨハネ 伝 XXII 章

図6 Paris, Bibliothèque nationale
de France, ms. lat. 17326, fol.
95r/a : 聖節の部、復活祭後の
水曜日

図7 Paris, Bibliothèque nationale
de France, ms. lat. 17326, fol.
154r/b : 聖人祝日の部、6月
28日、聖ペトロと聖パウロの
祝日前夜

